

エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 経過報告

令和2年度エゾシカ・ヒグマWGの開催概要

●第1回会議

令和2年7月28日（火）釧路市（エゾシカ関係）／29日（水）釧路市（ヒグマ関係）

○主な議題

<エゾシカ関係>

- ・2019（令和元）シカ年度実行計画実施結果について
- ・鳥類・昆虫類のモニタリングについて
- ・2020（R2）シカ年度実行計画案について
- ・日没時銃猟と捕獲個体の残置について
- ・世界遺産地域の隣接地域における今後の管理方針について

<ヒグマ関係>

- ・知床半島ヒグマ管理計画の進捗状況について
- ・知床ヒグマ対策連絡会議等の対応状況について
- ・ヒグマの適正管理に必要な調査・研究の実施状況について

<共通>

- ・長期モニタリング計画の評価項目及びモニタリング項目の評価

○主な内容

<エゾシカ関係>

- ・植生指標種は全体的に回復傾向にあるが、種によっては年変動が見られる（不安定である）。低密度を維持するためエゾシカの捕獲は継続する必要があるとの意見があった。
- ・知床岬地区では年々エゾシカを捕獲しにくくなっていることから、2020（R2）シカ年度の個体数調整は春期のみとし、厳冬期は休止して捕獲手法を再検討する（詳細は事務局と座長で協議して決定する）こととなった。
- ・植生調査結果の信頼性を担保するために、事業者の能力を判断した上で、第2回エゾシカ・ヒグマWGにて調査結果を報告する業務内容として発注すべき、との意見があった。
- ・鳥類・昆虫類のモニタリングについて、インベントリ調査として位置づけ、統一した調査方法と評価方針（案）が議論され、概ね了承された。
- ・法改正により可能となった夜間銃猟について議論し、日没時銃猟を試験的に導入することが了承された。日の出前の実施の有効性が指摘されたが、地元漁業への配慮や安全面の考慮が必要であること等から、今シカ年度は日没後のみとし、今後の検討課題となった。
- ・隣接地域での捕獲結果について、狩猟による捕獲頭数を加味した上で評価すべきとの意見があり、集計解析を行っている北海道立総合研究機構から北海道森林管理局に

情報共有することとなった。

- ・隣接地域におけるエゾシカ管理について、第4期管理計画（R4～8年度）の策定に向けた作業の進捗に遅れが出ており、地元関係者との調整等の早急な対応が必要との意見があった。

<ヒグマ関係>

- ・全道の管理計画との整合を取るという点からも、問題個体数はヒグマとの軋轢問題の解決策を検討する上で重要な指標であり、捕獲個体のゾーン・行動段階別の集計値を示してほしい、との意見があった。
- ・問題個体の捕獲に当たり、動物福祉上問題のある格子式の捕獲檻ではなく、ドラム缶式のわなを用いるべき、との意見があった。
- ・捕獲のための銃器使用に係る警察官職務執行法の柔軟な運用に向けて北海道庁から北海道警に調整してほしいとの意見があった。
- ・10月上旬に実施予定のカーフリープロジェクトについて議論され、知床の新たな自然体験のコンテンツであり、ヒグマとの軋轢解消効果も見込まれることから賛意が示され、魅力あるものにしてもらいたいとの意見があった（別紙）。
- ・環境研究総合推進費で実施されているヒグマの個体数推定について、昨年度収集したDNA試料から計350頭の個体識別に成功し、今年度の結果を基に個体数推定を行うこと、事業終了後の個体数動向把握のための簡便な指標の開発も併せて検討されていることが報告された。

<共通（長期モニタリング計画の評価項目及びモニタリング項目の評価）>

- ・モニタリング項目の評価シートに関する修正意見への対応をもって評価案が了承され、第2回会議にて評価項目の評価に向けて作業を進めていくこととなった。

2 今後の予定

令和2年度エゾシカ・ヒグマWGの開催予定

●第2回WG会議

令和2年11月頃 釧路市

○主な議題（予定）

<エゾシカ関係>

- ・R2シカ年度冬期及び春期事業計画（日没時銃猟及び捕獲個体の残置含む）について（報告）
- ・R2シカ年度植生モニタリング事業結果（速報）
- ・世界遺産地域の隣接地域における管理方針（案）の作成について

<ヒグマ関係>

- ・知床半島ヒグマ管理計画の進捗状況（速報）
- ・知床ヒグマ対策連絡会議の対応状況
- ・ヒグマの適正管理に必要な調査・研究の実施状況

<共通>

- ・長期モニタリング計画の評価項目の評価について

カーフリープロジェクト知床（案）

Car Free Project Shiretoko

Concept

知床本来の魅力を楽しむ観光デザイン

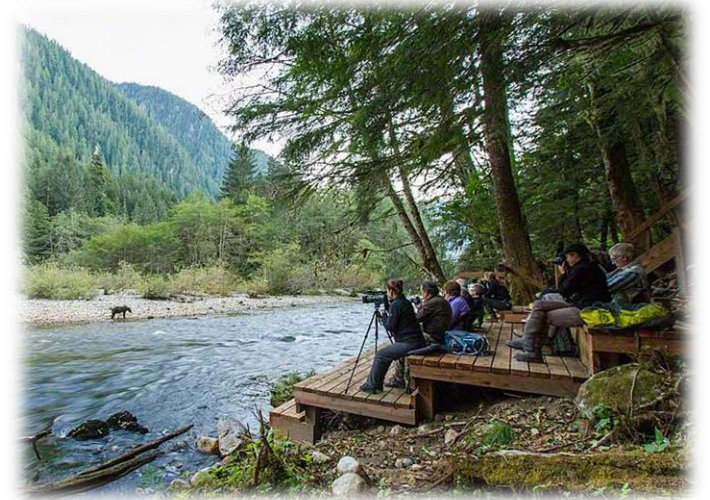
- シャトルバスを活用した野生動物観光の提案による世界遺産ならではの質の高い観光コンテンツ作りを目指す

アフターコロナの観光利用のモデルづくり

- マイカー規制による利用のコントロールから、移動そのものを魅力あるツアーコンテンツの一部とする事業モデルへの転換を図る

地域の事業者等支援

- 新型コロナウイルスにより大きく影響を受けている地域事業者と連携して事業を実施する



結果的に

地域の雇用確保、混雑対策、ヒグマと人の軋轢防止、自然環境の保全に

8月

従来通りのマイカー規制

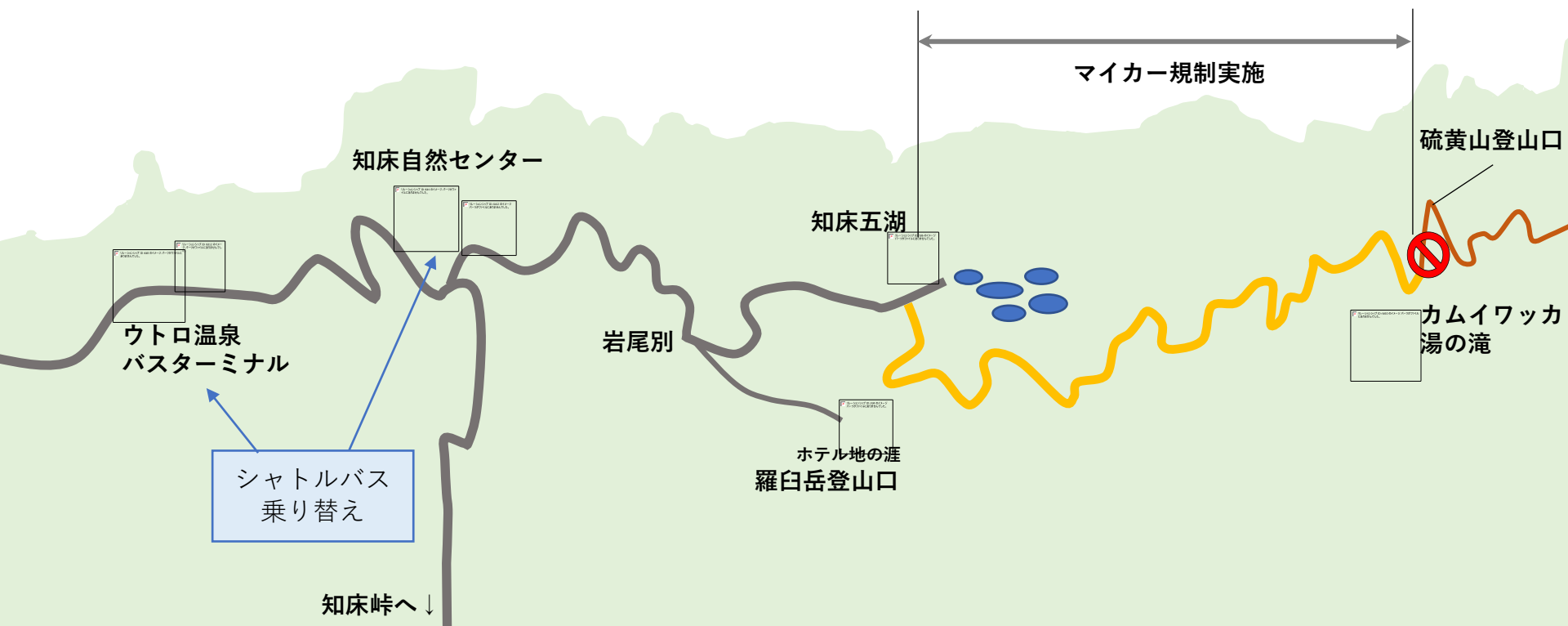
【期 間】 8月9日～15日（7日間）

【規制区間】 知床五湖ゲート～カムイワッカ（終日）

【代替交通】 シャトルバス：ウトロ～自然センター～五湖～カムイワッカ
（一部斜里バスターミナルからの路線バスが接続）

【運 賃】 有料（ただし減免措置あり）

- ・ 知床五湖まではマイカーでの通行も可能
- ・ 通常のマイカー規制時と同様の運用を期間短縮して行う



【除外車両】
[五湖～カムイワッカ] 徒歩/自転車/許可車両

10月

カーフリーデー in 知床 (仮)

【期 間】 10月2日～4日 (3日間)

【規制区間】 ホロベツゲート～カムイワッカ、岩尾別温泉道路

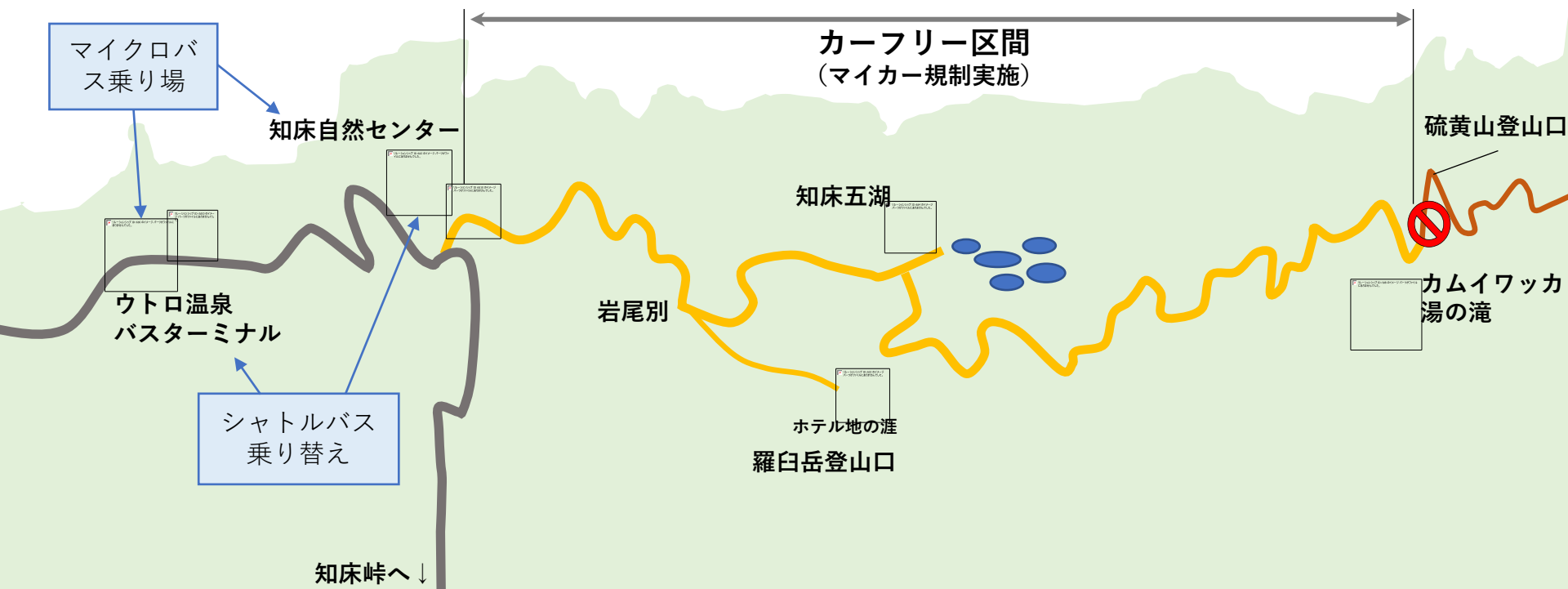
【代替交通】

シャトルバス：ウトロ～自然センター～知床五湖～カムイワッカ

宿泊者・登山者向けマイクロバス：ウトロ～自然センター～岩尾別～岩尾別温泉

【運 賃】 シャトルバス・マイクロバスともに **無料**

- ・ バスの運行とアクティビティの提案を組み合わせた誘客イベントを実施する
- ・ イベント実施のため、自然センター以奥のマイカーの乗り入れを規制する



【除外車両】

[ホロベツ～五湖] バス/観光バス等/タクシー/徒歩/自転車/許可車両/身体障害者手帳等の所持者の車両
[五湖～カムイワッカ] 徒歩/自転車/許可車両

カーフリーデー in 知床 (仮)

- 知床本来の自然を体験
- 規制ではなくサービスへ
- クマとビジターの軋轢緩和
- 多様なアクティビティが活発に行えるフィールドに



カーフリーデーとは？

「ヨーロッパを中心に毎年9月22日に行われる「カーフリーデー」という社会的イベント。この日、街の中心部では、マイカーを使う代わりに公共交通機関・徒歩・自転車などによって人々は移動する。また、都市の交通・環境問題に関するシンポジウムや展示会が行われる。市民が交通や環境について考える一日となっている。」（国土交通省HPより）また、「カーフリーデーまでの1週間は「モビリティウィーク」と定められており、自転車や公共交通機関の利用、地域環境の改善をテーマにした催しが行われる。」（環境用語集より）

エコモビリティについて

日本でも各地で行われているほか、自治体や地域では、車以外の移動手段に公共機関だけでなく電動Carタクシーや自転車、e-bike、カヌー、ハイキングなどを活用するエコモビリティに関する取り組みが広がっている（道北、札幌、黒松内町など）。また、グリーンツーリズムの分野ではガソリン車の乗り入れを禁止し、リモトリゾートとして価値を高める取り組みも行われている（イギリス、スイス、ドイツ他）。

シャトルバス運行

	8月	10月
運行形態※1	道路運送法に基づく 一般乗合旅客自動車運送事業	運行形態検討中
運賃	認可運賃の範囲で検討 (減免措置を検討)	無料
乗車券の販売 拠点	斜里バスターミナル ウトロ温泉バスターミナル 知床自然センター ホテル地の涯	
運行時間	20分間隔で運行 ウトロ始発： 8：30 ウトロ終着： 18：20	15～20分間隔で運行

※1. シャトルバスの一部は既存の路線バス[知床線]で代替する

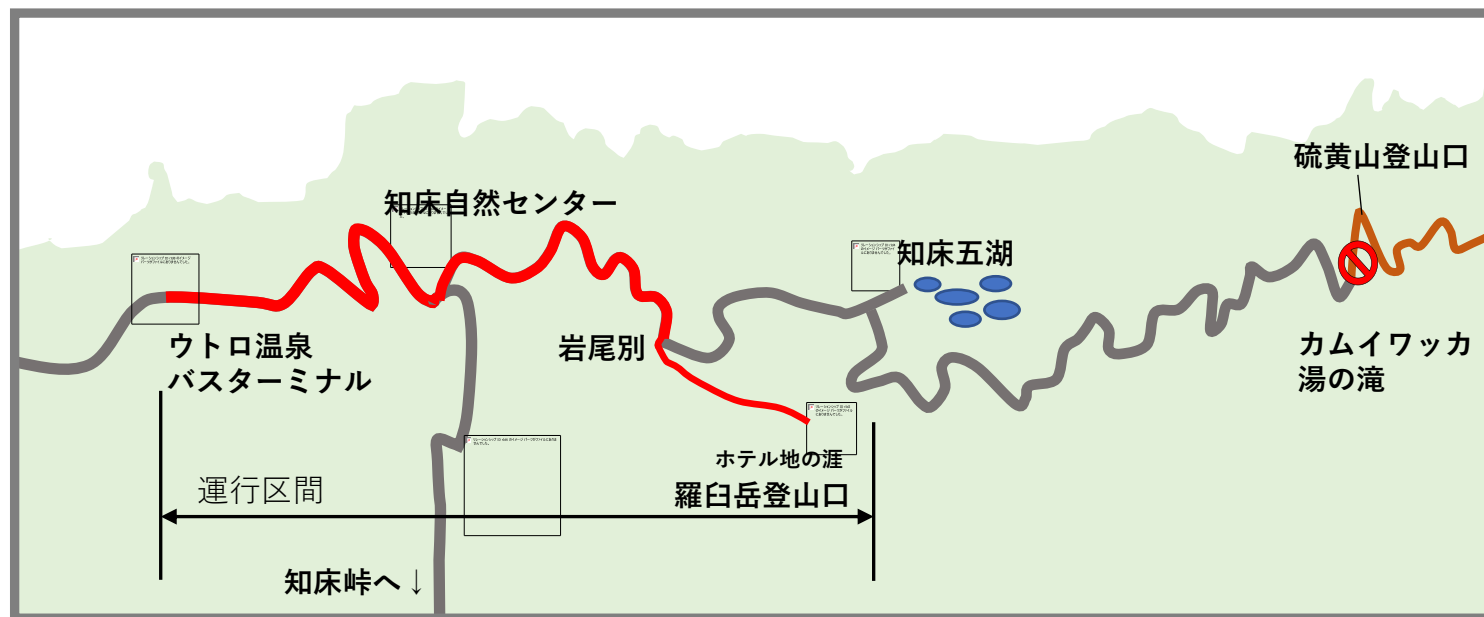
登山者・宿泊者向け代替輸送

- 岩尾別地区のホテル、山小屋宿泊者、登山者向けの代替輸送を実施
- スケジュールと区間、車両サイズを検討し、運行する

	8月	10月
運行形態※ ¹	なし (マイカーでのアクセスが可能)	マイクロバスを運行 運行形態検討中
運賃	—	無償

※1.代替輸送の運行は協議会から委託する。

【運行区間】 ※運行時間については宿泊施設、ガイド、地元山岳会等と協議の上決定



コロナウィルス対策

『バス・タクシー業界における感染防止対策ガイドライン（第1版）』に基づき実施する

- シャトルバスは間隔をあけての着席を促す。
- 定期的に消毒、清拭を行う。
- 換気（カムイワッカ区間は設備による換気）を行う。
- 乗車中はマスクの着用を呼びかける。（運転手はマスク着用）
- 発券施設・待合所でのウィルス対策を検討する。
- 第2波による社会情勢の変化があった場合は事業を中止する。

<参考例>

